

## 「会社研究」第2回目の記録

4月17日に実施された本年度2回目の四極会寄付講義は、(株)大分カード代表取締役社長の三浦洋一氏(大24)が「キャッシュレス化の進展と課題」と題して講義。三浦氏は四極会副会長でもある。

クレジットカードの歴史から説き起こして、現在の状況、新たな動き、今後の動向等について説明された。

それによると、買い物支払い時のキャッシュレス比率が日本は諸外国に比べて低く、19%、大分県は更に低くて9%。かたや先頭をいくスエーデンではキャッシュ比率が僅か2%しかない。日本で現金比率が高い要因の一つとして、治安が良くて盗難や銀行強盗が少ないことがあげられるとのことで、そうであれば現金依存が高いのもあながち悪いことではない。しかし現金は流通コストが高く、またフィンテックの進展や小売店の生産性向上のためのセルフレジの導入、API連携とあってQRコードと家計簿を連動させるアプリの出現等、ハード、ソフトの様々な技術が普及してきており、キャッシュレス化の効果は大きい。10月の消費税率引き上げ時には政府主導でカード利用に対する還元などの対策が取られることから、今後は日本でもキャッシュレス化が加速するのではないかと。

講義は、カラフルで分かり易い図表をパワーポイントで表示しながら進められた。金融機関が求める人材についての説明の他、100周年記念事業や女性部会「桃優会」への参加呼びかけもされた。

最後に、時間がなくて一人だけ受け付けた質疑では、キャッシュレス化で金融機関の役割はどう変化するかとの鋭い質問があり、講師は、地域と一緒に歩む地方金融機関の基本は変わらないと答えていた。

受講者は3年生を中心に約130人。配布した資料に5人だけ金色のシールが貼られていて、それが当たった学生は記念品をもらえるというおまけつき。

終了後、受講生は受講感想文の作成に熱心に取り組んでいた。

